



日本脳炎ワクチンを受けた方へ

(乾燥細胞培養日本脳炎ワクチン)

- ◎ 今日は接種部位を清潔に保ち、疲れすぎることや激しい運動は避けましょう。いつも通りの生活・入浴は構いません。
- ◎ 接種後30分以内に息苦しさや全身のかゆみなどが現れたときは 速やかに医師の診察を受けてください。数日から2週間以内に高熱やけいれんなどの異常な症状があらわれた場合も 速やかに診察を受けてください。
- ◎ 接種後、発熱・けん怠感・接種部位の発赤などが見られることがありますが、通常2～3日でよくなります。

※ 日本脳炎は、ブタなどの動物から蚊を介して感染し、人間は発症すると1/3の人が死亡する恐ろしい病気です(ブタは死にません)。

日本では九州・沖縄地方を中心に毎年数人の発症しかありませんが、中国・インド・東南アジアではしばしば大流行を起こしています。

ブタは、西日本では多くの県で また東日本でも静岡県や千葉県で 毎年日本脳炎ウイルスに感染しています。

※ 1週間たてば他の予防注射を受けることができます。

- ☆基礎免疫(Ⅰ期) 今日が1回目の人は 1～4週間後に2回目を。
今日が注射2回目の人は おおむね1年後にもう1回。
- ☆追加免疫(Ⅱ期)として9～13才未満に1回接種。

平成7年4月2日～平成19年4月1日生まれの人への救済措置

計4回の接種をいつでも(ただし20歳になるまでに) 受けることができます。

平成19年4月2日～平成21年10月1日生まれの人への救済措置

7歳半までにⅠ期3回を接種できなかった人は、追加免疫の年齢(9～13歳未満)にⅠ期の無料券を使うことが出来ます。

Q 平成22年に接種を再開した日本脳炎ワクチンは旧型のワクチンと何が違うのですか？

A 旧来の日本脳炎ワクチンは生きているマウスの脳でウイルスを増殖させました。新ワクチン(乾燥細胞培養日本脳炎ワクチン)は、培養細胞でウイルスを増殖させますので、マウスの脳は使用しません。ADEM(下記参照)の発症が少なくなるであろうと期待されます。

Q ADEM(アデム、急性散在性脳脊髄炎)とは、どのような病気ですか？

A 感冒あるいはワクチン接種後に、まれに発生する脳神経系の病気です。ワクチン関連の場合は、接種後数日から2週間程度で発熱、頭痛、けいれん、運動障害等の症状があらわれます。治療により多くの患者さんは正常に回復しますが、神経系の後遺症が10%程度に残るといわれています。

このように原因は様々ですが、平成15～16年の全国調査で15歳以下のADEM症例101名のうち、ワクチンとはまったく無関係のものは86名(約85%)で、旧型日本脳炎ワクチン後の報告は4名(約4%)でした。

(細胞培養ワクチン接種後にも、少ないですがADEM(急性散在性脳脊髄炎)発症の報告はあります)

★ 新ワクチン製造の初期段階に、牛海綿状脳症(BSE)発生国であるアメリカ及び日本の牛の成分を使用しています(この点に関してはヒブワクチンと同じです)。「現在の科学的水準において、伝達性海綿状脳症(TSE)感染の危険性が全くないと断言することはできませんが、厚生労働省の通知により、それぞれの成分について理論的な危険性を評価した結果、一定の安全性が確保されていることを確認している」とのことです。